

「NO! スポハラ」活動 推進資料

～あなたは生徒の心に火をつけられますか？～

【愛知県高体連としての「NO! スポハラ」活動】

- 愛知県高体連 HP に「NO! スポハラ」活動のバナー掲載
- 体罰根絶に関する通知文の発出（4月、適宜）
- 理事会・評議員会等での「NO! スポハラ」に関する啓発
- 各種会議・競技会における「NO! スポハラ」活動ロゴマークデザイン掲示
- 高体連ニュース、各種大会要項等への「NO! スポハラ」活動ロゴマークデザイン掲載
- 「NO! スポハラ」活動推進資料の作成
- 指導者講習会時における「スポハラ」に関する講義
- 「スポハラ」に関するセミナー等の案内



愛知県高等学校体育連盟



1 スポハラとは？

スポーツの現場における暴力・暴言・ハラスメント・差別など安全・安心にスポーツを楽しむことを害する行為のことです。

指導者と指導を受ける者との関係のみならず（例えば、指導者同士・先輩から後輩、保護者から監督）、スポーツの現場における関係者の誰によっても、また誰に対してであっても、スポハラは起こりえます。

2 スポハラの種類

パワハラ、セクハラ、暴力（身体的虐待）、暴言（精神的虐待）、性的虐待、差別的言動無視・仲間外れ、不適切・不合理な指導など

※他人に配慮し、他人を尊重することは「安全・安心にスポーツを楽しめる社会をつくる」うえで必要不可欠なことです。

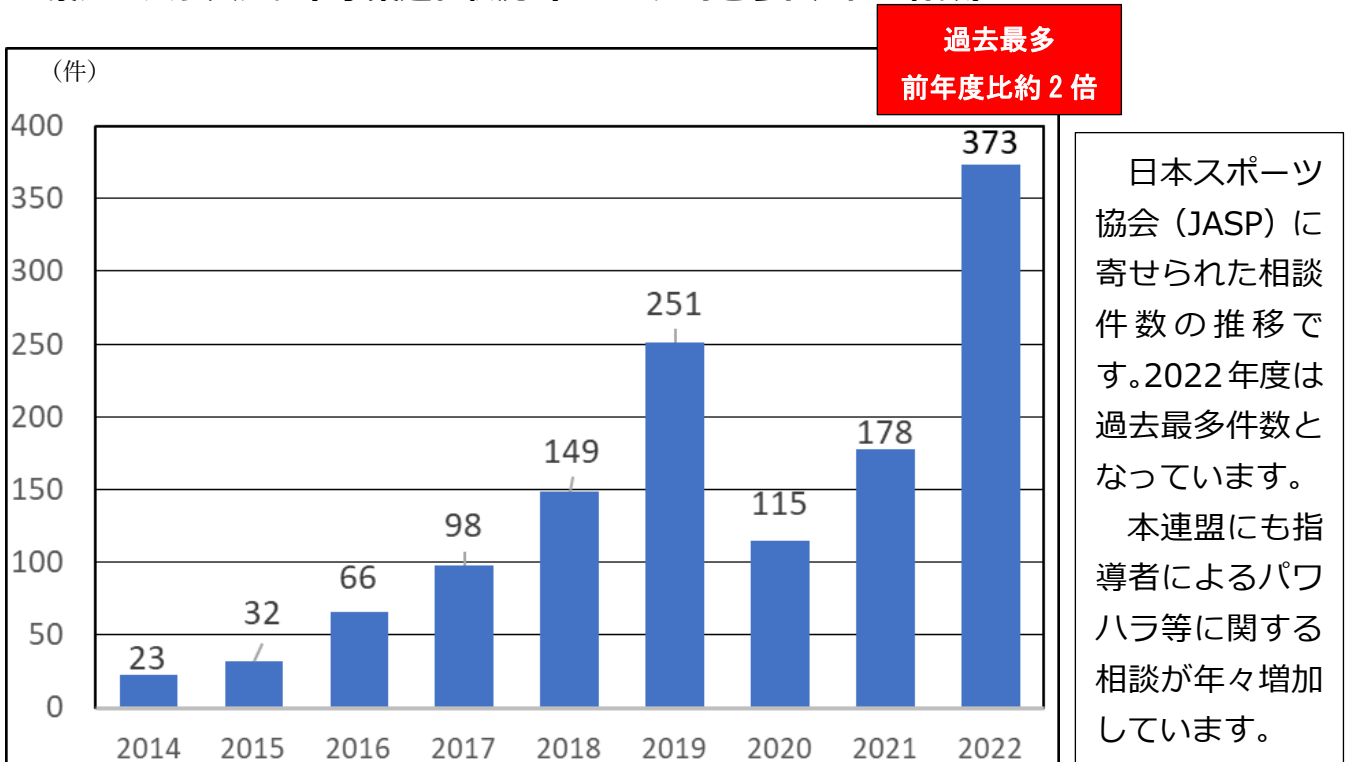
3 「NO！スポハラ」活動とは？

「スポハラ」が起きないことを目指すだけでなく、「誰もが安全・安心にスポーツを楽しむ社会をつくる」ための活動です。

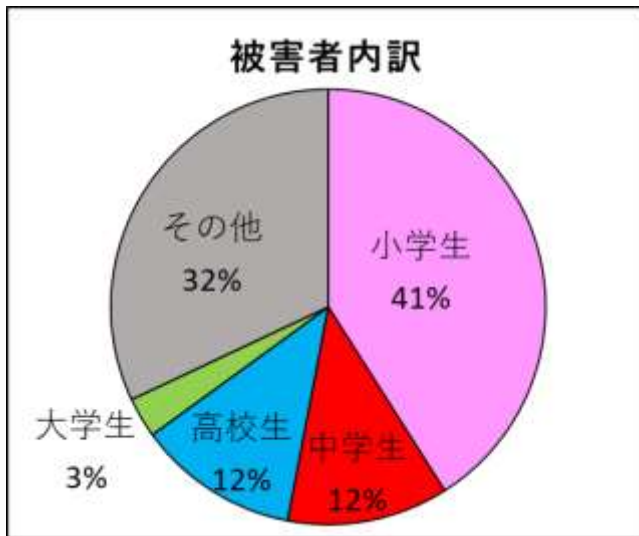
そのために、スポーツに関わる皆さんが、「スポハラ」はあってはならないもの、ダメなもの、「NO！スポハラ」という価値観をもてるようになることを目指します。

体罰根絶宣言から10年が経過した2023年度を「NO！スポハラ」活動を開始する年と位置付け、全国高体連を始め、日本スポーツ協会、日本オリンピック委員会、日本パラスポーツ協会、大学スポーツ協会、日本中体連が取り組んでいます。

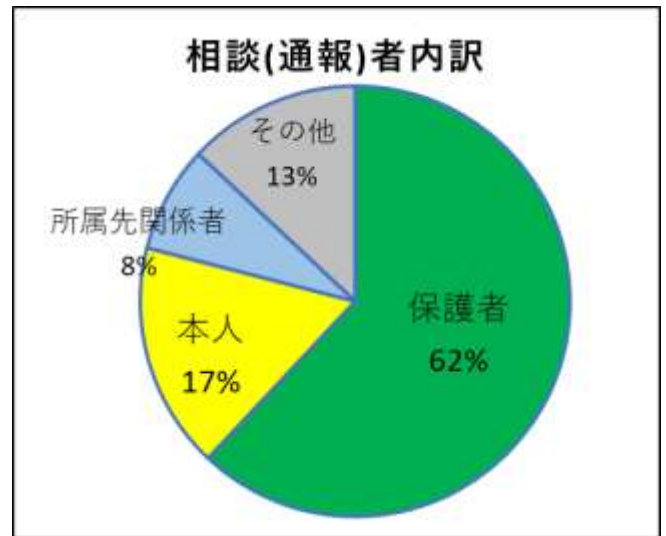
4 暴力・ハラスメント事案通報状況（JASPに寄せられた相談件数）



5 スポハラ被害者・相談者内訳（2014～2022 年度末 JASP に寄せられた相談件数）

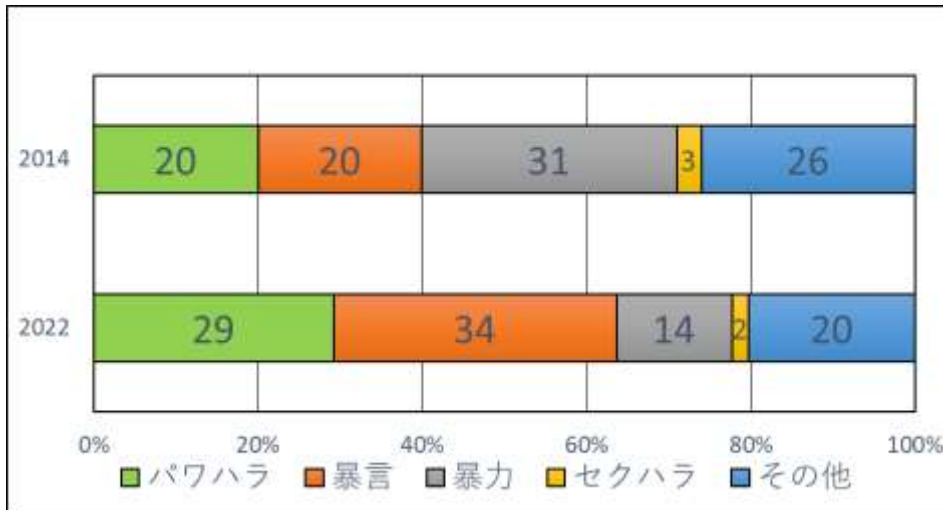


被害者の65%が、小・中・高校生です。



相談件数の62%が、保護者からです。

6 相談内容の内訳（2014・2022 年度比較 JASP に寄せられた相談件数）



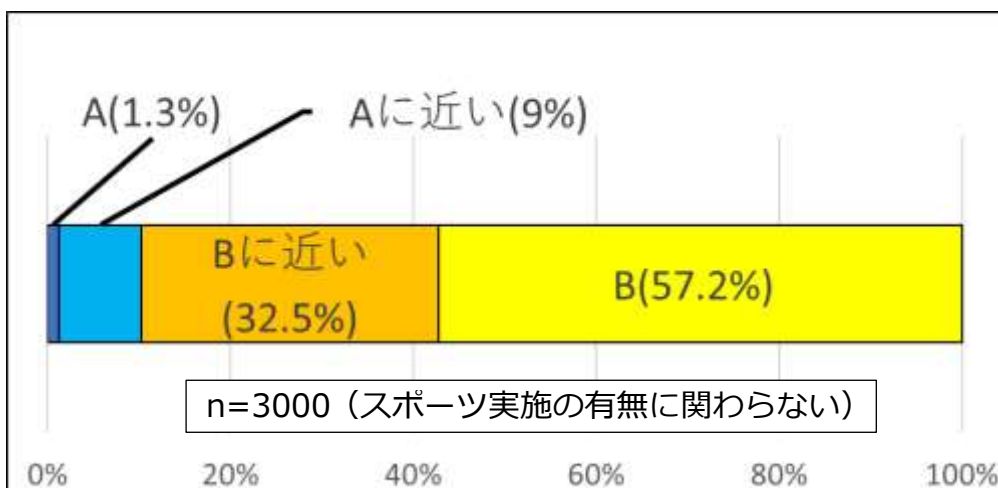
「暴力はいけない」という認識が広がったため、暴力の相談割合は減少しましたが未だに暴力はなくなっていません。

近年、パワハラや暴言の相談件数が増加傾向にあります。

7 スポーツ現場における不適切行為に対する考え方（JASP 2023.2月調査）

A: 競技力が向上するならば指導者による不適切行為はあってもよい

B: いかなる理由でも指導者による不適切行為はあってはならない



一般の方の中には約60%が「不適切な行為はあってはならない」と考えています。

しかし、この割合は決して高くありません。この考え方を100%にしなくてはなりません。

8 不適切な事例（経緯や程度によって判断が変わる場合があります）

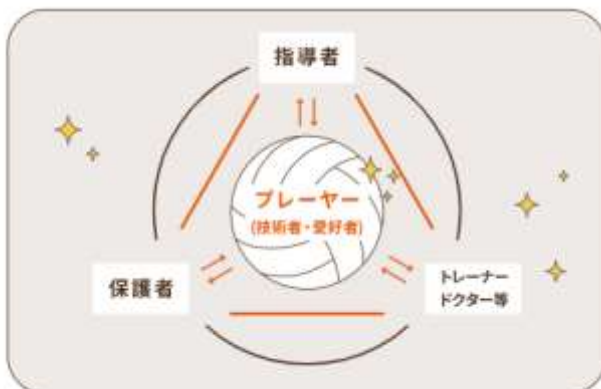
坊主などの髪形を強要、土下座を強要、やめちまえ・いるだけで迷惑、お前のせいで負けたなど言う、家族を馬鹿にする、いやなあだ名をつける、見た目をからかう、必要以上に長時間叱責する、大声で威圧的に叱責する、近くの椅子をける、作戦版を投げつける、練習に参加させない、チーム内の連絡手段から外す、達成できない課題を設定し達成するまで練習させる、過酷な環境下で長時間練習させる、サプリメント摂取や過度な食事制限を強要する、経験者に対して誰でもできる単純な練習ばかりさせる、車でタバコを吸いながら子供たちを送迎する、身体に触れてフォームを矯正する、休養日にこっそり「自主練習」をさせる（参加できるものはしなさいとって参加しないといけない雰囲気醸し出す）、本人の意向を聞かずに進学の話を進める、保護者も容認しているのでげんこつぐらいはよいだろうと愛情をもって叩く、試合に負けたためグラウンドを選手と共に20周走る

9 スポハラをなくすためには

- 暴力・ハラスメントは許されないという毅然とした態度
→過去の悲しい事故・事件を知ることが大切
- コミュニケーションの充実と指導方法の追求
→言葉による指導、選手を理解させ、主体性を導く指導
→選手を「待つ・信じる・許す」
- 自分自身のマネジメント
→常に自問自答をし、時には自身の指導を見つめなおす(情報交換)
→アンガーマネジメント（怒りの管理方法）等の感情コントロール
→「これはハラスメントか？」という意識を持つ
→全ての処置を言葉で説明する癖・意識を持つ（説明責任が果たせるか）



10 選手の立ち位置は？（アスリート・ファースト ➡ プレーヤーズ・センタード）



アスリート・ファーストという言葉がありますが、ではセカンドは何になるのでしょうか？
コーチングの新しい潮流としてプレーヤーを中心に置き、プレーヤーの主体性を大切にする
ことで、プレーヤーだけでなく、コーチ・保護者も含めたスポーツ環境の整備を目指していく
といった考え方がこれからの時代には必要となってきます。

11 ティーチングからコーチングへ（山本五十六の名言より）

[ティーチング] やってみせ、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば、人は動かじ

[コーチング] 話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず

12 さいごに（ウィリアム・アーサー・ワードの名言より）

凡庸な教師はただしゃべる　　良い教師は説明する　　優れた教師は自ら示す
そして、偉大な教師は生徒の心に火をつける！

今後もグッドコーチ（学び続ける指導者）として、生徒の健全育成を目指しご尽力願います！